

検討テーマ「これからの地域コミュニティづくりを考える」

【コミュニティを考える視点】
 <ゲストの方のお話より>

コミュニティの定義：「地域社会」「近隣社会」
 地域に人が住み、そこに人のつながりがある様子のこと

【コミュニティの論点：活動の場 人材 資金 連携】

<p>活動の場 おしゃべりの場(昔の井戸端)のようなものが必要 課題：地域のコミュニケーションの場が減ってきている</p>	<p>人材 すでに活動している人とこれから活動する人 課題：新しく活動する人をどう迎えるか(お祭りなどが契機になることも)</p>
<p>資金 人の活動には、資金が必要なものもある</p>	<p>連携 コミュニケーションを定期的、継続的に取る必要がある</p>

【コミュニティ力の強化】

人のきずな、つながりを強める
 「電車の中に100人が乗っていても、その集団をコミュニティとは言わない。コミュニティの形成するには、人と人とのきずなをつくる必要がある。その第一歩は「あいさつ」をすること、次に、お祭りであるとか、あるいはおしゃべりの会であるとかいろんな仕組みをつくることで人のつながりを強化していく必要がある」

<p>問題の共有 地域にすんでいる人たちの問題の共有化があるとコミュニティは形成されやすい(例：井田協友会の町会の立ち上げのきっかけは防犯)</p>	<p>コミュニティ力の継続 コミュニティの継続には「熱意」は不可欠。それを維持するために熱意を持っている人から次の人へ伝播していかなければならない。</p>
--	--

【委員の意見・提案(区民会議の議論より)】

- <コミュニティのイメージ>
- ・ コミュニティとは、いろいろ自由な意見を言い合い、おしゃべりして、いろいろなものが生まれてくるというイメージである。
 - ・ お隣同士でお互いに仲よく、それが拡大していくと1つのコミュニティという形が形成されていく。
- <コミュニティの場>
- ・ 公園は地域のコミュニティの拠点のひとつになるのではないかな。
 - ・ 子どもを連れてきたり、共通の趣味で集まったり、また、子育てや、生活上のいろいろな不安をみんなで話し合うような場が必要
 - ・ コミュニティの場として、地域の連合会館、町会の会館をフル活用すればコミュニティの場所はできるのでは。
 - ・ コミュニティは必ず「箱物」がなければコミュニティはできないかという、それは違うのでは。例えば等々力緑地のところで何人が固まって将棋をしている、それもコミュニティである。形があるコミュニティはもちろんだが、「形がなくなってもコミュニティ」というものを考えていく必要がある。
 - ・ 「何とかの役員」でなくても、普通の人が行けるような場づくりをぜひ発信していければ。そのような場であれば若い人たちも協力してくれるのでは。そこでヒップホップをやったっていい。そういう場づくりをやっていければよいのでは。
- <コミュニティの連携>
- ・ 地域の民生委員とか町会とか社会福祉協議会とか、そういう人たちが手をつないだところが地域コミュニティとして大きく膨らんでいくのではないかな。
 - ・ 学校、地域、行政、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会のつながりがあるので、それを有効に発展していけばよい。
- <小杉駅周辺再開発地区等の課題>
- ・ 小杉駅周辺再開発地区には多くの人たちが移り住んできている。新たな住民の人の中には自分たちの生活にあまり干渉はされたくない、しかし一方では、新生活に不安を感じている人もいる。そういう人たちへのケアも考えなければいけない。
 - ・ 小杉駅周辺再開発地区の高層マンション群をはじめとして、マンションに住む人が大幅に増えてきている。「横」じゃなく「縦社会」になっている。そういう中でコミュニティをどうつくっていくのかが一番の課題ではないかな。

【目指すべき方向性～何を目指すか?】

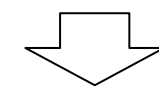
(キャッチフレーズ的なものを作成し、目指すべき方向性を分かりやすく表現してはどうか。)

・

・

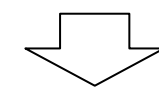
・

・



【課題解決のためにどのようにすればよいか】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・



【課題解決に向けた取り組みの担い手等は?】

- (担い手の例)：(具体的な取り組み内容)
- ・ 区民会議委員：
 - ・ 地域：
 - ・ 区民：
 - ・ 行政：
 - ・ 区民(地域)と行政の協働：
 - ・ その他：